

平成27年度 第1回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成27年6月5日（金）

午後4時～午後6時

場 所 蒲郡市役所新館5階庁議室

挨拶

- 任期満了に伴い委員の変更があったため全委員自己紹介。

議題

(1) 会長・副会長の選任について

- 会 長：委員の互選により和泉潤氏を選出（再任）
- 副会長：会長の指名により金子哲三氏を選出（再任）

(2) これまでの経緯について

- 事務局から「市長への提言 資料編」に基づき説明
- 金子副会長から補足説明

(3) 今後の課題と進め方について

ア 市長への提言について

- 結論

- ・ 「市長への提言」の中で今後検討すべき課題として挙げられた①助成金制度（※1）の見直し、②基金（※2）への寄付金確保の取組、③指針（※3）の見直し、④会議運営についてどの課題から取り組むか優先順位付けを行った。協議の結果、助成金の制度見直しを最優先で検討する。助成金制度について、PDCAサイクルを回す中でこれまでどういったことが分かったか情報を整理したうえで会議で議論する。

(※1) 助成金：「蒲郡市市民企画公募まちづくり事業助成金」・・・市民活動団体が自主・自発的に行う本市のまちづくりに役立つ公益的事業に対し、事業の経費を助成する制度（平成18年度創設。これまで合計71事業に助成）

(※2) 基金：「がまごおり協働まちづくり基金」・・・蒲郡市協働のまちづくり条例第9条に基づき平成20年度に設置。協働のまちづくりに関する事業の推進を図るため、市の一般財源や寄付金などを基金に積み立てて運用。助成金と協働モデル事業の原資に充てている。

(※3) 指針：本市の協働まちづくりの基本方針として平成17年に策定。この指針は、平成13年策定の第三次蒲郡市総合計画の基本構想に明記されたまちづくりの基本理念である「市民・企業・行政が協働して、積極的にまちづくりを展開」するためのルールとしてとりまとめており、「信頼」「対等」「明確な役割分担」の3つをキーワードとして、協働の推進方策を「市民と行政の合意形成の環境づくり」「協働モデル事業」「具体的な推進策」に分けている。

- 委員意見等

- ・ 会議の運営は議論する内容によると思うので、当面の課題から検討すべき。
- ・ 助成金の制度設計は議論していきたい。より多くの団体に応募してもらうためにはどういう制度設計すればよいか。また、それに伴う指針の見直しについては、その運用方法について整理していければ後回しにしてもよいのでは。
- ・ 助成金については完璧な制度はないと思う。まずは、来年度に間に合うように見直しを図りながら、引き続きPDCAを行い、さらによりよい制度にできるよう検討していければよい。
- ・ 議論してもすぐに答えは出るとは限らないが早目から議論を始められるとよい。
- ・ 制度見直しの議論を進める中で指針についても言及されることが出ると思うので、指針については、その時に議論していければよいと思う。
- ・ 「蒲郡市協働のまちづくり条例」が制度の根幹になるので、今一度見返してほしい。基金の使い方も、市民団体への助成以外に新たな公共の担い手となる市民団体を発掘するような提案も出るかもしれない。条例で定める運用方法を見返すことで次の提案につながると思う。

イ 協働モデル事業について

○ 結論

- ・ 今年度実施事業を次回会議で議論できるよう、各委員次回までに検討いただく。
- ・ 協働モデル事業を決めるための参考資料として、市の事業で市民参加型の企画やボランティアの一覧リストを作成する。また、事業を実施する場合の活動拠点の候補として空き家・空き店舗の有効利用について状況を整理する。

○ 委員意見等

- ・ 就職できない若者に対する就労サポート。地元企業への職場体験も行っているが企業にも負担になるため日数が限られたり見学に留まるケースが多い。彼らが社会の中で活躍できると感じられる取り組みができれば。
- ・ 高齢者を含めて地域の人が集まる“居場所”作りに取り組んでいる。団塊の世代の人が活躍でき、自分達の居場所を自分達で作りが地域を巻き込んで地域の核となるような場所作りができれば。
- ・ 協働モデル事業では、市民が自ら動くことが大前提。ただ、自分達だけでは課題解決できないところを行政と一緒に汗をかこうというもの。
- ・ 市民が蒲郡を好きになってもらい市民自ら動いてもらう取り組みができれば。
- ・ 春日浦の団地やブルーブリッジの掃除を5年間やっている。町内でボランティア組織「おたすけ隊」も立ち上げた。蒲郡の街中をきれいにする取り組みができれば。
- ・ 観光都市として清掃活動は大変重要なことだと思う。
- ・ 食の安全として地産地消の取り組みもよいのでは。その時に、若者サポートステーションや居場所作り等とリンクしていけるとよいと思う。
- ・ 次回までに事務局で市民参加型の企画やボランティアの一覧のリストを作成してほしい。また、活動拠点の候補として空き家や空き店舗の今の状況についても整理してほしい。

ウ 助成金追加募集について

○ 結論

- ・ 平成27年度助成金の追加募集を行う。審査員は委員長に一任する。

○ 補足説明

- ・ 事務局から平成27年度助成事業の状況について説明。予算残額が50万円あるため追加募集するかどうか。まちづくりセンターが把握している中で申請しそうな団体がない状況を補足説明。

○ 委員意見等

- ・ 募集するとすれば「はじめの一步」部門だけで50万円。
- ・ 形原地区の伝承活動やボランティア活動でできないことがないか。

その他（事務局から）

- 次回会議は8月3日（月）を予定。当日は懇親会付。時間等詳細を事務局調整後、後日案内予定。

会議欠席者 小林浩子委員、委員数11人中出席委員10人（会議成立）